

来るように”，などと言われたりしていた。とにかく彼は、バイタリティーの塊のような人物であり、物理の議論をすることを心から楽しんでいるようだ。私は、彼の物理に対する豊かな視点に多くを学んだとともに、その研究スタイルにも、大いに感服させられたものである。良きにつけ悪きにつけ、彼の個性がこの教室に強い影響を与えていることは、紛れもない事実であろう。

4. 終わりに

いまや外国に旅行することは、相対的にさほど高くつくものではない時代になった。私は、大学院生諸君には小さなワークショップならば自費を出してでも参加することを勧めているが、海外での大会議に参加することには、決して賛成しない（むろん観光が第一目的の場合はこの限りではない）。結局、ただ単に参加したというレベルで終わってしまう可能性が高いからである。私の場合がいい例になるのかどうかはわからないが、個人的には Taos でのワークショップに出席できたことが好運であったと思っている。大会議ではとても近寄って話すことなどできない人であっても、少人数で3食をとともにする形式では割合気楽に知り合いになれるからである（さらに言えば日本人はほかに誰もいない状況が望ましい）。この意味では、宇宙論を例にとると、Aspen や Moriond で定期的に行われているワークショップ等が、コストパフォーマンスが高いものと思われる。幸か不幸か、宇宙物理学は、国際的な学問分野であり、外国での研究状況がある程度頭に入れておくことは必要であろう（行き過ぎると、単に外国の流行を追っているだけのオリジナリティを欠いた研究になる危険性があることは、言うまでもないが）。

もないが）。

最後に、私のようなものが今回、名誉ある賞を頂けたのは、多くのすばらしい先輩や共同研究者の方々のおかげにはかならない。高エネルギー研究所の理論部の方々には、この研究のための場所を提供してもらい、また計算機の利用を認めて頂いた。ここであらためて、公私にわたり今でもお世話になり続けている大学院時代の恩師の佐藤勝彦先生、パークレー滞在時にお世話になった Joseph Silk 氏、本研究の共同研究者である Jeremiah P. Ostriker 氏に心からの感謝の意を表させて頂いて、結びとしたい。

文 献

- 1) J. P. Ostriker and Y. Suto: *Astrophys. J.* **348** (1990) 378.
- 2) 須藤 靖: *パリティ* **5** (1991) 10月号, p. 32.
- 3) 須藤 靖: *日本物理学会誌* **46** (1991) 印刷中.
- 4) Y. Suto, K. Górski, R. Juszkiewicz, and J. Silk: *Nature* **332** (1988) 328.
- 5) 須藤 靖: *日本天文学会誌* **81** (1988) 161.
- 6) P. J. E. Peebles and J. Silk: *Nature* **335** (1988) 601.
- 7) E. J. Groth, R. Juszkiewicz and J. P. Ostriker: *Astrophys. J.* **346** (1989) 558.
- 8) 例えば, P. Lubin, T. Vilella, G. Epstein and G. Smoot: *Astrophys. J. (Letters)* **298** (1985)L1 を参照のこと.
- 9) M. Clutton-Brock and P. J. E. Peebles: *Astron. J.* **86** (1981) 115.
- 10) Y. Suto: in *Proceedings of the Third Nishinomiya-Yukawa Memorial Symposium*, Edited by H. Sato and H. Kodama (Springer-Verlag, Berlin, 1990), p. 63.
- 11) Y. Suto and M. Fujita: *Astrophys. J.* **360** (1990) 7.
- 12) Y. Suto, N. Gouda and N. Sugiyama: *Astrophys. J. Suppl.* **74** (1990) in press.
- 13) 須藤 靖: *日本天文学会誌* **80** (1987) 201.

お 知 ら せ

琉球大学教官公募

1. 職名及び人員 助手 1名
2. 専門分野 物性実験.
光物性(量子エレクトロニクスを含む)
又は磁性の分野の方が望ましい。
3. 職務の内容 学生実験、演習を担当する。低温センサーの運営に協力する。
4. 応募資格 地方大学の置かれている状況をよく理解できる方。
博士の学位を取得しているか又はこれに準ずる方。
30歳前後の方が望ましい。
5. 着任時期 平成3年4月1日を予定。

6. 提出書類

- (1) 履歴書
- (2) 推薦書
- (3) 研究業績リスト及びその別刷り又はコピー
- (4) 教育及び研究に対する抱負 (1200字以内)
- (5) 健康診断書

7. 公募締切期日

(1) 平成3年2月15日(金) (必着)

(2) 封筒に「公募書類在中」と明記して、簡易書留便で送付して下さい。

8. 応募書類の提出先及び連絡・問い合わせ先

〒903-01 沖縄県西原町千原1番地

琉球大学理学部物理学科

主任 嘉手納用和

☎ 09889-5-2221

内線 2632 (研究室) 2634 (物理学科事務室)